

## 第二節 時代の流れに乗って

### 家族で教えを学ぶ

神が示される指針を学んで、社会が向かう方向を知り、その中でどう生きていけばよいのかをつかむことが大切です。社会に目やれば、さまざまな事件、事故も相次いでいます。一つ一つの原因は、人為的な欠陥だの、人間関係のもつれだの、常識を欠いた行動だのと、いろいろなことが指摘されます。いずれにしても、事件、事故などが絶えないのは、それだけ社会が乱れているからです。

現代は、マスコミやインターネットで得た情報、知識に流される傾向にあります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。

知識に流される人が多く、向があります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。例えば、子供は家族と触れ合う中で育てていこうと思いつつ、向があります。

な社会だから、誰もが責任を回避しようと、萎縮していく傾向もあります。

神のご指導が判断基準に、しかし、信者は、神のご指導を学ぶことで、物事の判断基準が見え、何を心配することもなく、安泰な気持ちで暮らすことができます。神のご指導が理解できれば、祈願の的も見えてきます。毎日、自分が何を心掛ければよいのかが分かって、的を射た祈願ができます。

神 示

迎えた年の課題を教えん

家族で「教え」を学び 家庭に生かす努力が大切

人類は 時代の変化を受け入れ 時代の流れに乗って「生きる」 眞実を悟る

神示「眞理」を学ぶ者は ますます「眞理」の価値を味わい 救われてゆく

この世は 運命実体が重なり 時にぶつかり合って 調和を保って流れている

万物全ての存在が 有限の命に生かされて 時代となるのである

人類は 時代 歴史の眞実に気付かず 人間が時代をつくると思う

社会がまとまらず 乱れる因が ここにある

神が使者を通し 世に示す「教え」を学び 心の姿に生かしてごらん

自然と気持ちは安定し 人がつくる社会の流れに 心のまれることなし

この時 「生きる」環境も安定し 奉仕に生きる心が 社会を調和させる